

みんなで協力 身近な環境改善
グラウンドワークとは.....

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたもぜひ活動にご参加ください。
(文中グラウンドワークをGWと表記することがあります。)

平成24年度 通常総会開催

6月24日、三島市民文化会館の大会議室にて、平成24年度の通常総会が開催された。前年度の事業報告、決算報告と、本年度の事業計画、予算計画が審議され、賛成多数で承認された。また、第5号議案で、役員任期満了に伴い、定款11条により後任者の選任が行われ、下記のとおり承認された。

新役員 平成24(2012)年7月1日より

名誉会長：緒明 實 理事長：小松幸子
副理事長：小野 徹 専務理事：渡辺豊博
理事：加藤正之、北岡和義、室伏勝宏、速水洋志、
小浜修一郎、志村 肇、春名 薫

監事：遠藤 隆、高橋邦明

これに先立ち、第4号議案で評議員の任期満了に伴い、定款38条により後任者の選任が行われ、下記のとおり承認された。

新評議員 平成24(2012)年7月1日より

青木利治、秋山峰治、太田黒敦雄、越沼 正、斎藤彩子、清水純子、杉本政博、田中 稔、原 知信、広川敏雄、水野幾子、森 昭夫、渡辺昭信、渡辺憲次



名誉会長
緒明 實



理事長
小松幸子

20年前の設立から関わっており、多くの出会いが今につながっています。人とのつながりを大切に、先見性のあるプランを進め、活動がさらに上げられるような役割を果たしたいと思っています。



副理事長
小野 徹



専務理事
渡辺豊博



理事
加藤正之



理事
北岡和義



理事
室伏勝宏



理事
速水洋志



理事
小浜修一郎



理事
志村 肇



理事
春名 薫



監事
遠藤 隆



監事
高橋邦明

「三島街中カフェ」移転オープン!

6月9日、街中のにぎわい発信や交流拠点として、楽寿園正門南隣に「三島街中カフェ」をリニューアルオープンした。



1階では、三島産の新鮮野菜や、手作り品、土産物、洋品、駄菓子、惣菜などの展示販売を行い、リピーターが増えて地域の人気スポットになり始めた。2階には、白滝公園を一望できる喫茶カフェのほか、陶器や版画等の展示コーナー、ワンコインパソコン講座や健康ま〜じゃんサロンなどができるスペースがある。まだまだ面白いアイデアで、三島駅から南へのメイン道路のにぎわいに大いに貢献できそうだ。開店時間は10:00~16:30(不定休)。今後とも楽しい企画をと皆張り切っている。



第13回「心を元気にするショートツアー」

今回のツアーでは、7月15日開催の「楽寿園開園60周年記念三島フードフェスティバル」で、和太鼓の演奏を披露するために、宮城県塩釜市の「いそやまあかり太鼓キッズ」と、同県利府町の「利府太鼓」の2チームを招待した。

初日の14日には、御殿場市にある「富士山樹空の森」に寄って富士山について学び、『世界のキャブトムシ・クワガタ展』を見学後、隣接の温泉も体験。



15日は、午前中に第1回目の演奏を披露してから、伊豆市にある「日本サイクルスポーツセンター」で遊び、昼食後、第2回目の演奏に向け三島に戻った。桜川の上に作られた水上ステージは、幻想的な雰囲気を醸し出し、2チームの演奏は、それぞれ息の合った心地よいリズムを打ち鳴らし聴衆を魅了した。

16日は、源兵衛川の散策。GW三島渡辺豊博事務局長の説明を聞いてから、インストラクターたちの案内で子どもたちは元気に「生き物さがし」や三島梅花藻の里めぐりなどをした。残念ながら滞在中に富士山は見られなかったが、大きな富士山の写真を各自1枚ずつもらい、大喜びで帰路についた。

※協力店等：富士山樹空の森、御胎内温泉健康センター、ココチホテル、キャッツカフェBiVi沼津店、日本サイクルスポーツセンター、いちごプラザ、パステリア地中海、フォトライフシェルパ

松毛川に千年の森をつくろう

① 松毛川の竹林伐採作業

4月30日、松毛川河畔に繁茂した竹林の伐採作業を行うと、百年以上を経た巨木が姿を現し、三島側からは初めて水面が見えた。参加者は、静岡県立吉原高校や芝浦工業大学の学生、伊東市からのボランティアやインストラクター、地域住民、GW三島のメンバーなど。指導役は、山竹種苗園社長ほか。粉碎機を提供した松尾研究室社長らも参加し賑やかだった。



② 松毛川子どもグリーンクラブ(セブン-イレブンみどりの基金)

☆ ふるさとの森をつくろう



5月17日、富士常葉大学非常勤講師の菅原久夫さん、山竹種苗園社長グリーンアドバイザーの山田健次さんを講師として、松毛川河畔にて、静岡県立清水特別支援学校高等部2年生、教職員、地域の人々が植林活動を行った。2時間の作業で、約10種類60本の苗木が植えられた。参加者は松毛川の自然植生の説明を受け、苗木の名前を覚えながら作業を進めた。

☆ふるさとの森を観察しよう

6月17日、富士常葉大学非常勤講師の菅原久夫さんを講師として、松毛川河畔にて、子どもとその家族による自然観察会が行われた。道端のいろいろな植物に子どもは興味津々。「ドクダミの葉っぱが臭いのは外敵から自分を守るためなんだね」「冷蔵庫に入れると防菌と脱臭効果があって食品が腐りにくくなるんだって」など口々に言っていた。



源兵衛川で環境学習

伊豆の国市立菰山中・1年生が水辺で学習

5月22日、GW三島渡辺豊事務局長が源兵衛川の水辺環境改善について説明。パッション(情熱)を持つことで、1人ではできないことも人々の協力を得て解決ができることを強調した。



その後、インストラクターの案内により、源兵衛川、宮さんの川、ほたるの里、雷井戸、三島梅花藻の里を訪れ、各実践地の環境改善活動、生物や水質の特徴などを学んだ。

『源兵衛川わくわく観察ブック』発行

源兵衛川の生き物と草花の図鑑、三島湧水の仕組み、再生への取り組み、湧水マップ等をまとめた。体験学習に使いやすい手のひらサイズは、子どもたちの水辺の生物観察で大好評。

平成23年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受け作成した。関心のある方は、GW三島事務局へお問い合わせください。



「沢地グローバルガーデンの草花・生き物ミニ図鑑」贈呈



5月7日、グローバル文化交流協会は、沢地グローバルガーデンの草花と生き物55種をまとめたミニ図鑑(冬春版)を三島市立沢地小学校に贈呈。図鑑は会員らが約1年かけて撮影、調査、編集したもの。全校児童と教職員に手渡した。また、2年前に作成した夏秋版も図書室用に贈った。校長は「児童がミニ図鑑を手にとり自然探しをしていました」と、お礼の言葉を寄せた。

贈呈された「沢地グローバルガーデンの草花・生き物ミニ図鑑」(冬春版)



5月14日には、豊岡武士三島市長を訪問し両版を贈呈。三島市内の小中学校の図書室、三島市立図書館等での活用を依頼。図書館からは「地域の人々がまとめたものは特に貴重です」と感謝の言葉が寄せられた。



みちしるべ
暦は日々の暮らしの道標

三嶋暦 河合家 第53代 河合 龍明さん
三島市大宮町に在住



七夕飾りの三嶋暦師の館

貞観時代(859~877年)より、三嶋大社の社家であり、旧暦を代表する三嶋暦の発行元でもあった河合家の長男として、昭和16(1941)年10月、東京渋谷に生まれる。

明治6(1873)年、政府の太陽暦採用に伴い、旧暦の時代は終わる。しかし、暦業者たちの生活のことも考慮され、その後の10年間は、太陽暦の制作だけは許可された。明治16(1883)年、富国強兵政策の一環として、政府は「すべての暦作りは伊勢神宮だけにする(伊勢暦に統一する)」という通達を出し、当時40軒ほどあった暦作り業者たちは、遂に廃業を余儀なくされた。河合家もそのうちの1つであった。第50代当主であった龍明さんの曾祖父は、暦師廃業の後、幾多の経緯を経て、三嶋町長になった。



三嶋暦の版木で作られた火鉢

51代の祖父も、最後は三嶋町長となる。現職のまま祖父が亡くなった後、河合家は祖父が独り守り続けることになる。52代当主の龍明さんの父親はサラリーマンで、27年前に亡くなられた。ニューヨーク生まれの母親は、92歳の今も元気で、龍明さんご夫婦と一緒に暮らしている。

子供時代は東京に住み、三島へは長期の休みのとき1週間から1カ月滞在するだけであった。父親の転勤で小学校2年生の時から高校まで神戸に住んだ。そのせいか、今でも大阪が大好きで、熱狂的なタイガースファンである。大学は学習院大学政経学部に進み、卒業後はサカタインクスというインク・メーカーに就職。38年間営業一筋で、全国を駆け回ったそうだ。平成14(2002)年の定年後は、母親と奥さんの意思を尊重し、同時に河合家を守るのは自分の宿命であると感じ、三島に戻ることを決めたそうである。



三嶋暦の拡大版で暦の説明を

龍明さんは当初、三嶋暦についての知識はほとんどなかった。しかし、三島に戻ってまもなく、三嶋暦についての講演依頼がきっかけとなり、三嶋暦の研究を始めるとたちまちその面白さの虜になったという。「暦は単なるカレンダーではない。先達の歴史的経験知が詰まっている。スローライフの素晴らしさ、四季の美しさも教えてくれる。暦はいわば大自然を形にしたものであり、日々の暮らしの道標といえる。こういう先人の英知を後世に伝えていきたい」と語る龍明さんは、もうすっかり「三嶋暦師の館」第53代当主の顔になっていた。



三嶋茶碗の陶芸体験

河合家を「小さな博物館」として再興しようという構想は、元郷土資料館館長の故杉村斉氏の未完の夢であったが、三島市役所の現産業振興部長 宮崎眞行氏がその意思を受け継ぎ、せせらぎ事業の一環として実現、平成17(2005)年に「三嶋暦師の館」として開館した。

開館1年前の平成16(2004)年、「三嶋暦の会」が発足した。最初は会員数20人であったが現在の会員数は31人である。平均年齢64歳。歴史好き、郷土史好きの集まりで、毎週、金、土、日には当番を決めて来館者の対応にあたっている。年間の来館者数は3,500人ほど。半数は県外からで、地元三島からの来館者が少ないのが悩みという。しかし最近では、課外授業の一環として来館する小学生の数が増えているのは、いい傾向だと喜んでいる。

三嶋暦の会 <平成24年度イベント>

三嶋暦の会では毎年、恒例となった行事のほかにも各種イベントを企画しています。

太字は恒例の行事

- 4月 上巳の節句を祝う
- 5月 講演会「江戸時代の暦と時刻」
- 6月 **三嶋茶碗(暦手、三島手)の陶芸体験**
- 8月 **小田原提灯制作**
- 9月 **仲秋の名月を愛でる**
- 12月 紙漉きと和綴じ
- 3月 **初午寄席(平成25年)**

ガーデンでつながる高校生ボランティア・いまむかし

出会いのガーデン・沢地グローバルガーデンに、高梨教頭も駆け付けてくださり・・・

陸上部顧問の小林一幸先生と川口純平先生のご尽力もあって実現！



ガーデン作業によく参加する日大のアメリカ人留学生、ジェyson・カンタウェイさんとも、楽しく交流。

「右手にスコップ・左手に～？」

台風で傾いたゲイトの補修作業

今春、元三島北高校長の山田勝造さんとジェysonさんで植えた2代目のミモザアカシア2本に、支柱を。



2代目のミモザアカシア

鳥が運んできた種から大きくなった柿の木を剪定する作業。



ドムニースクエア周辺の草刈り作業



三島JC等表示板の補修作業



ロープ張り作業



ゲイトも看板類も傾きを補修してもらい、リフレッシュしたガーデン

規律正しい挨拶をし、走って北高へ向かう北高生たち

静岡県立三島北高等学校を訪問

6月27日、県立三島北高校を訪問し、鈴木まき子校長にGW三島の活動（主として沢地グローバルガーデンでの活動）への北高生の参加をお願いしました。



GW三島については、「活動の全貌については分からないが、その活動に参加している知人からよく話は伺っています」とのことでした。しかし、2006年頃の北高生の沢地グローバルガーデンにおける植樹活動等については、全く知らなかったようで、当時の写真を見せながら説明しました。

また、北高生の沢地グローバルガーデンでの活動再開についてお願いしたところ、「高校生の社会活動への参加や地域への貢献は大切だと思っています。今すぐ大きな協力は無理かもしれませんが、できる範囲内で少しずつ協力していきたいと思っています」というコメント。学校の教育活動や教育計画に支障のない範囲での協力がいただけそうでした。

後日嬉しい連絡があり、7月21日の沢地グローバルガーデンの作業に陸上部の生徒20数名が参加してくれることになりました。当日は、グローバル文化交流協会（GW三島への参加団体の1つ）のメンバーたちと、植樹した2代目の樹木の支柱立て、草刈り、ロープ張り、ゲイトや表示板の補修、木々の剪定等の作業に熱心に取り組んでくれました。

100年を超す歴史と伝統ある三島北高2人目の女性校長。ジャカランダの花は先生の長年の“夢の花”とか。「いつか紫のジャカランダの花を求めて南半球へ行きたい」とおっしゃっていました。



2002年7月20日の日付入り三島北高の看板脇には、北高生植樹のライラックとミモザアカシアが、立派に育っていた。



ある時の強風で、枝が折れてしまったミモザアカシア。



北高生のボランティア引率の新井隆雄先生を通じて、北高にミモザアカシアの花束を贈呈。



蝶が群がっていたライラックも台風で倒れ、現在は2代目。

Beating Heart of Mishima

三島の鼓動する心臓

Mr. Jason Contway

ジェイソン・カンタウェイさん



カナダと国境を接するアメリカ北西部モンタナ州から昨年9月来日。現在日本大学国際関係学部で文化人類学及び日本語、日本文化について学ぶ。

東京や京都などの大都市ではなく、大きなビルもない、ほとんど誰も知らない三島へ行くといった時、「どうして？」と不思議な顔をされた。以来9カ月、純朴で人情味あふれる三島の人々や豊かな自然に恵まれた三島の町が大好きだと言う。

当初日本人の本音と建前に戸惑うこともあった。「近いうちに一緒に飲もうよ」とか「ぜひ家に遊びに来て」と言われ、楽しみにしていたが実現したことはなかったとか。日本人特有の軽い挨拶ではあるが、まともに受け取る外国人は多い。日本人が考慮すべき点だ。

昨年12月末、ボランティア活動をしたいと、GW三島の事務所を訪れて以来、源兵衛川、沢地グローバルガーデン、三島梅花藻の里などでの活動に意欲的に参加してきた。GW三島はいわば「三島の鼓動する心臓」のような存在というのが彼の印象。それまで放置され、忘れ去られていた様々な場所に血液を送り込み、環境面で蘇らせたばかりでなく、多くの人々を三島に引き寄せるなど、経済面でも三島の活性化に大きく貢献しているからだ。

事前の準備にたっぷり時間をかけるのが日本流のボランティア活動。そのかわり一旦スイッチが入ると作業は流れるように早く進行し、手直しも少ない。準備にあまり時間をかけないのがアメリカ流。すぐに作業に取り掛かるが手直しも多い。日米の違いが何となく分かるような話であった。

人間が大好きで細やかな人情の触れ合いを求めるアメリカの青年は、日本人以上に日本での生活を楽しんでいるようだ。

ものづくりが楽しくて!

あんどう ひであき
安藤 英彰さん

愛知県春日井市出身。東京で学生時代を過ごし、就職も東京。名古屋と沼津に転勤経験がある。その間の昭和59(1984)年36歳の時、三島市富士見台に住居を構え、現在も奥さんと2人の娘さんと暮らしている。

GW三島との出会いは、平成8(1996)年のせせらぎ元気工房のそば栽培に参加したのが最初。元々、物作りが好きだったので、そば作り、そば打ちから始まり、「遊水匠の会」に入り、大工仕事に取り組みようになった。手がけた物は、水車、天水尊、竹あかり、くつべら、風車、三島街中カフェの改修等々。

最近、遊水匠の会では、三島梅花藻の里にワサビを10本ほど植えたところ根付き、葉が出たので、もう少し植えることにした。収穫できれば、そばに添えて味わって欲しいと考えている。

奥さんに用事を頼まれた日以外は、工房に日参して作業に励む。「仲間との共同作業を楽しませていただいています」と謙虚である。

若い頃から酒、タバコはやらず、日々身体を動かし健康管理にきびしい。それが若さの秘訣でもあるようだ。趣味はヨット(自作艇製作)、家庭菜園、そば打ちと並ぶが、特にヨットは平成12(2000)年に八丈島クルージングを行ったほど。次は小笠原クルージングに挑戦、更には客船での世界一周と夢は大きい。



パッション No.13

メダルラッシュのビオトープ

環境教育の推進や自然との共生を目指すことを目的として、優秀なビオトープを対象に、(公財)日本生態系協会主催の「全国学校・園庭ビオトープコンクール」や、NPO日本ビオトープ協会による顕彰事業が行われている。園児、児童、生徒、PTA、地域住民、企業、GW三島等が協働で作上げたビオトープがこれらのコンクールで数多く受賞。今後、ビオトープを軸とした自然再生の輪の広がりが期待されている。



函南さくら保育園「遊子・トープ」

★ 静岡県立三島南高等学校「三南トープ」

- ・全国学校ビオトープコンクール2009「銀賞」受賞
- ・全国学校・園庭ビオトープコンクール2011「日本生態系協会賞」
- ・2012年 日本ビオトープ協会「ビオトープ顕彰・環境教育賞」受賞

★ 三島市立長伏小学校「夢トープ」

- ・全国学校・園庭ビオトープコンクール2011「学校・園庭ビオトープ奨励賞」受賞(小・中学校部門)

★ 社会福祉法人信静会・函南さくら保育園「遊子・トープ」

- ・全国学校ビオトープコンクール2005「学校ビオトープ優秀賞」受賞
- ・全国学校ビオトープコンクール2007「ドイツ大使館賞」受賞

竹あかりイベント

6月9日、「第29回三島ホテル祭り」にあわせ、楽寿園正門前で竹あかりイベントが開催された。日が落ち、100本の竹あかりが点灯すると、楽寿園正門前が幻想的な空間に包まれた。大人気の、ハート型に並んだ特大の竹あかりでは、ハートの中に入り写真撮影する人も多く、正門からの来場者約6,000人が楽しんだ。

「竹あかり」の材料は、三島市内放置竹林で間伐した青竹を利用。制作は、毎週火曜日の午後、せせらぎシニア元気工房の人たちが「悠遊工房ひろかわ」で行った。竹を高さ30~50cmに切り、多彩な透かし彫りを施し、特大の竹あかり100セットを組み立てた。



地球環境基金「ふる里の川を学ぶ環境教育」



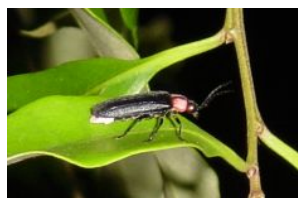
GW三島は(独)環境再生保全機構の平成24年度の助成団体に選ばれた。活動名は「地域総参加で源兵衛川の生物多様性を保全・ふる里の川を学ぶ環境教育プログラムの開発と絶滅危惧

種ホトケドジョウの生息環境再生活動の展開」。

環境整備から20年が経過した源兵衛川は、豊かな生態系を持つ水辺自然空間を再生、復活しつつある。水辺再生の経過を知り、生物多様性を持続的に保全するために、次世代の担い手を育てる体制が求められている。そこで、環境教育プログラムの実践により人材育成を図り、世代を超えた源兵衛川環境保全ネットワークの構築を目指している。今年度の活動として「源兵衛川子ども環境探検隊出前講座」、「生き物観察会」、「インストラクターフォローアップ研修」を予定。

ゲンジボタルの「おじさん定点観察記」

今年の源兵衛川のホタルは約3,000匹!



GW三島のインストラクター山口東司さんが、源兵衛川のゲンジボタルを4月29日から7月1日の20時前後に観察。範囲は、源兵衛川の三石神社から一本松バス停まで。

5月5日から羽化が始まり、6月1日がピークで約300匹、7月1日羽化終了。多く見られたのは第3ゾーンで、次いで第4ゾーン、第5ゾーン。特に、5月26、27日には三島市医師会メディカルセンター西側付近で見事な乱舞が見られた。

GW三島援農活動 山の畑、里の畑から

GW三島ホームページ「みしまふるさと援農ネット」で、山の畑、里の畑の活動を紹介している。

竹林再生 昨年の間伐竹材を利用して、手桶や竹あかりなどの竹製品の開発、制作やタケノコの収穫などの環境、観光資源として活用。

馬鈴薯の収穫 キタアカリ、レッドムーン(サツマイモのように赤く、切ると黄色という不思議なイモ)の2種類を、山の畑で100kg、里の畑で400kgの合



計500kgを掘り上げた。

小麦収穫 イワイノダイチ(小麦)の収穫。丹那の鈴木秀泰さんがコンバインで刈り入れ、収穫された小麦は倉庫で乾燥。今年の収穫量は1,440kg。製粉後は中華料理店、パン製造、餃子の皮用に出荷予定。麺類(特にうどん)に適しているので、GW三島では、うどん打ちに取り組む予定。



ミシマサイコ 薬草として珍重され、収穫には2年を要し、現在栽培中。

源兵衛川一斉清掃における環境配慮のお願い

GW三島、三島ホテルの会、源兵衛川を愛する会は、連名で昨年度に引き続き「一斉清掃における環境配慮のお願い」を市長、関係団体に文書で手渡した。5月13日、市内自治会、関係団体による「第32回三島の川をきれいにする奉仕活動」が開催された。作業当日はGW三島の関係者が参加し、現地の作業において環境配慮のお願いをした。



源兵衛川には、ホトケドジョウやゲンジボタルなどの貴重な水生生物が生息している。3月~6月は繁殖期にあたり、生息場所である水際、川岸を踏み荒らさないように注意が必要。ミシマバイカモ、ヤナギモなどの流中の植物やセリなども除去せず残すことが大切。

今回の活動でも、環境配慮についての理解と協力が得られた。

ビオトープの実践教育から本が誕生

函南さくら保育園の広い園庭を利用したビオトープ作りは、GW三島が手伝い、学校ビオトープコンクールで2度受賞している。遠藤弥生園長が、自然とのふれあいを通して行っている豊かな実践教育を『SAKURA.H.Q 教育メソッド』という本にまとめ出版した。





「藤」は日本人だけのもの？

ヴェネツィアのメストレ地区で、「藤」を見た時には、驚いた。——しかも、ちゃんと「藤棚」が作られている…。「イタリア人が、藤の花を愛でる？」なんて、想像もしていなかったのだ。

日本でも「藤」の薄紫色は、特に高貴な色とされ、繊細な神経を持っていなければ、その色あいを味わうことなどできない筈と思っていたのが、誤っていたようだ。

同じく移動中に、一面の「菜の花畑」を見た時も、「ここは、日本じゃないのか」と錯覚したが、考えてみればイタリアはデザインの国で、薄紫も、あでやかな黄も、その範疇(はんちゅう)にあるのだから、「あなたの方こそ、おかしい」と言われても、仕方がない。

しかし、そう錯覚せざるを得ないほど、イタリア中が、糸スギ(イタリア・サイプレス)、カサ松、オリーブという何の変哲もな

い木ばかりが目立つ。

ただ、大都市の街路樹は立派で、ローマのプラタナス、フィレンツェのボダイジュ、ミラノのマロニエや、プラタナスや、ボダイジュなど、古都にふさわしい落ちついた雰囲気を創り出している。

ミラノには赤い花のマロニエ(ベニバナトチノキ)の並木もあって、レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」がこの街の教会にあるというのも頷ける。

そもそも、イタリアに街路樹が似合うのは、ローマ、つまりイタリアが語源の「ロマンス」の背景に、街路樹がつきものであるからかも知れないが、一方で、イタリアからは、クラウディア・カルディナーレ、ソフィア・ローレン、ラウラ・アントネッリといった、セクシーで情熱的な世界的女優を輩出している。

繊細な薄紫を愛でるイタリア人と、情熱的なイタリア人——どこかに、北部と南部の差異があるのだろうか。



イトスギはイタリアの代表的な木(ピサ)



見事に咲き誇ったフジの花(ヴェネツィア)



ボダイジュの並木の下にはアベックも(ミラノ)



セクシーないでたちのイタリア女性(カプリ島)

過ぎゆく三島 いっまでも その10

町なかに 富士の地下水 湧きわきて 冬あたたかに、こむる水露 歌人・穂積 忠



写真提供 静岡県立三島南高等学校

穂積 忠 (明治34年～昭和29年、1901～1954) 歌人。中学2年(14歳)で北原白秋の門下となり、国学院大学で折口信夫に師事した。生家は静岡県田方郡田中村吉田(現伊豆の国市)に今も残る伊豆有数の名門。忠は6、7歳頃まで祖父や父のもとで俳諧の手ほどきを受けて育ち、文学のプロフェッショナルとして仕込まれた。彼は「短歌の師は北原先生、学問の師は折口先生」と他人にも自分にも言いきかせていた。

大正12(1923)年、国学院大学高等師範部を卒業。折口信夫のすすめで、長野県松本高等女学校(現長野県松本蟻ヶ崎高等学校)に赴任。しかし、同年9月1日、関東大震災で両親を案じ帰省。田方郡立三島高等女学校(現静岡県立三島北高等学校)に転任。昭和6(1931)年には、静岡県立韮山中学校(現静岡県立韮山高等学校)に転任。この間、郷土伊豆天城を愛する作品を次々に数百首発表。昭和16(1941)年、韮山中学校教師から、教頭を経ずして静岡県伊東高等女学校長(現静岡県立伊東高等学校)となる。昭和23(1948)年、静岡県立南高等学校長に転任し、県下の古参校長として公務いよいよ多忙となる。

よき市にわれ職得たり。心処のさびしきときは、富士を見に出つ (『叢』より)

三島南高等学校長時代の昭和25(1950)年、石坂洋次郎原作『山のかなたに』の映画化のロケ地に三島が選ばれ、時代背景となる昭和22(1947)年の旧制中学校生徒役として同校の男子生徒たちが出演した。「穂積校長は、出演料の全額を生徒会に寄付されたそうだと、当時の生徒たちは振り返る。

町かどに 真ともにあふぐ 雪の富士。よろしき町や、ことにみ冬は (同上)

昭和29(1954)年2月7日53歳にて没。自宅と菩提寺での告別式の後、三島南高等学校葬が行われた。『穂積忠全歌集』の編者、穂積生萩氏は、年譜・昭和29年の最後に「敬愛する師、折口信夫の後を追うように、愛する富士の煙となってこの世を去った。野心も野望もない潔癖な詩人の一生であった」と記述している。

平凡に 人思うこと、われもまた 一日おもひてゐしが うれしも (遺詠)

※ 参考文献：『穂積忠全歌集』短歌新聞社昭和59年発行(著者 穂積 忠 編者 穂積生萩)
 ※ 引用した短歌の仮名、句読点などは『穂積忠全歌集』の表記のまま。



三島市内の写真集



撮影日：平成16(2004)年7月3日
 撮影者：みしま こまち
 コメント：江戸時代の樋口本陣の門が山門に移築されているという圓明寺には、「孝行犬の墓」がある。三島北高に来ていたアメリカのロスアラミトス高校の生徒たちに、市内案内を頼まれたグローバル文化交流協会には、偶然お気に入りの「犬のぬいぐるみバッグ」を持った小学生連れもいて、楽しい交流ができた。湧水溢れる水辺もたっぷり体験し、三島の夏を満喫してもらった。8年前のことである。

【投稿方法】撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日に一言添え、Eメールに添付してGW三島事務局までお寄せください。 Eメール：info@gwmishima.jp

GW三島活動記録 2012年4月1日-2012年7月31日

月	日	曜日	事業名	内容	場所	人数
4	16	月	境川・清住緑地愛護会	通常総会、講演(増島淳講師)	西地区防災センター2階	15
4	21	土	境川・清住緑地愛護会	ジオツアー境川・清住緑地・柿田川と湧水	境川・清住緑地・柿田川	18
4	30	日	松毛川千年の森づくり	竹林の伐採作業(三島市御園)	松毛川	40
5	13	日	源兵衛川生物多様性保全活動	一斉清掃・環境配慮のお願い	源兵衛川	5
5	14	月	環境教育	ペットボトル風車づくり	函南さくら保育園	5
5	17	木	松毛川子どもグリーンクラブ	②ふるさとの森をつくらう	松毛川	45
5	18	金	環境教育	県立清水特別支援学校高等部2年体験学習	松毛川	45
5	20	日	この祭り、乱れ咲き9th	チャリティーイベント運営、出店	源兵衛川	45
5	22	火	環境教育	葦山中1年体験学習	三島商工会議所	10
5	23	水	環境教育	東小4年出前講座(リサイクル)	源兵衛川など	45
5	26	土	環境教育	腰切不動尊	東小学校	61
5	29	火	環境教育・インストラクターフォローアップ研修	東小3年出前講座(ゲンジボタルの生態)	腰切不動尊	7
6	3	日	境川・清住緑地子どもグリーンクラブ	①水辺の生きもの観察と田植え・定例作業	東小	61
6	9	土	参加団体会体会議	今年度の事業について	境川・清住緑地	150
6	15	金	三島街中カフェ	開所式	三島街中カフェ	10
6	15	金	参加団体会体会議	今年度の事業について、その他	三島街中カフェ	30
6	17	日	松毛川子どもグリーンクラブ	③ふるさとの森を観察しよう	三島街中カフェ	12
6	17	日	CSR	イオンチャージクラブ「バイオトイレ」勉強会	松毛川	15
6	17	日	評議員会	平成24年度評議員会	悠遊工房ひろかわ	16
6	17	日	理事会	平成24年度理事会	三島市民活動センター	15
6	24	日	CSR	トヨタ自動車労働組合「源兵衛川であそぼ！」	三島市民活動センター	120
6	24	日	平成24年度通常総会	H23事業・決算報告、H24事業・収支予算決定など	源兵衛川、レストランJun	90
6	24	日	理事会	平成24年度理事会	三島市民文化会館	10
6	26	火	環境教育	東小3年出前講座(身近な昆虫)	東小学校	66
6	27	水	環境教育	東小4年ミニ出前講座・体験学習(源兵衛川)	源兵衛川など	65
6	28	木	環境教育	錦田小3年出前講座(昆虫の生態)	源兵衛川など	121
6	28	木	環境教育	錦田小4年出前講座(源兵衛川)	源兵衛川	120
6	30	土	馬鈴薯収穫体験	馬鈴薯収穫体験	御園	20
7	2	月	環境教育	徳倉小4年ミニ出前講座・体験学習(源兵衛川)	源兵衛川など	72
7	3	火	環境教育	西幼稚園年長体験学習(源兵衛川)	源兵衛川	30
7	4	水	環境教育・インストラクターフォローアップ研修	西小3年・出前講座(源兵衛川)	源兵衛川	90
7	4	水	環境教育	北上小4年ミニ出前講座・体験学習(源兵衛川)	北上小学校	72
7	5	木	環境教育	錦田小4年体験学習(源兵衛川)	錦田小学校	120
7	10	火	環境教育	佐野小1年出前講座(夏の身近な昆虫の話)	佐野小学校	80
7	10	火	環境教育	三島西小3年体験学習(源兵衛川)	源兵衛川など	90
7	14	土	子どもを元気に富士山プロジェクト	第13回「心を元気にするショートツアー」1日目	樹空の森、御胎内温泉	30
7	15	日	子どもを元気に富士山プロジェクト	第13回「心を元気にするショートツアー」2日目	三島市内、日本リサイクルスポーツセンター	30
7	16	月	子どもを元気に富士山プロジェクト	第13回「心を元気にするショートツアー」3日目	源兵衛川	40
7	21	土	境川・清住緑地子どもグリーンクラブ	②新緑の自然に触れてみよう(夏のネイチャーゲーム)	境川・清住緑地	15
7	22	日	鎮守の森探検隊	①調べてみよう！川のきれいだて川虫の関係	源兵衛川	25
7	28	土	鎮守の森探検隊	②富士山麓の草原に生きている昆虫と花の観察会	西日塚	25
7	31	火	寄付金贈呈式	株式会社フジコー様より	グラウンドワーク三島事務局	4

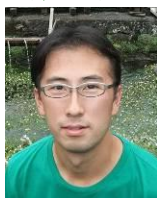
(定例作業)

- 三島梅花藻の里・・・23回
- 鏡池ミニ公園・・・3回
- 桜川・・・4回
- 宮さんの川・・・毎日
- 源兵衛川・・・3回
- 沢地グローバルガーデン・・・4回

(定例会)

- インストラクター会議・・・4回
- スタッフ会議・・・3回
- 編集会議・・・9回

GW三島事務局の新スタッフ



きたともやす
喜多 智靖

21世紀塾・第250回記念例会にGW三島出席



7月26日、GW三島の参加団体の1つである21世紀塾が、みしまプラザホテルで第250回記念例会を開催。GW三島小松幸子理事長が出席し交流を深めてきた。当日はメンタルトレーナー久璃あさ美氏の記念講演があり、約70名の参加者は、潜在意識という無限の可能性を引き出す方法に耳を傾けた。

グラウンドワーク三島編集室

ボランティアニュース47号の編集ほか (50音順)

- 加藤美穂 岸野和子 城所但帝 小松幸子 斎藤彩子
- 本田博子 前田充子 水野幾子 村澤 圭 山崎多紀子
- 山田勝造 (GW三島事務局担当：村上 茂之)

ご寄付をありがとうございます！

「子どもを元気に！富士山プロジェクト」ほかGW三島の活動のために

- *株式会社フジコー様 100,000円
- *「この祭り、乱れ咲き9th」各出店者様 90,915円
- *募金(個人5人と17団体) 147,055円

合計 337,970円

株式会社フジコー様よりご寄付



7月31日、株式会社フジコー様より、寄付金100,000円の目録の贈呈が、GW三島事務局で行われた。

これに対してGW三島より感謝状を贈呈し、GW三島渡辺豊博専務理事が感謝の言葉とともに、松毛川での「千年の森トラスト運動」の活動に使わせていただいたと伝えた。

視察来訪者記録 H24.4.1～H24.7.31

月	日	団体名	人数	地域
5	12	JC静岡ブロック協議会(みしまプラザホテル)	50	静岡
5	18	ルイス&クラークレッジ	2	アメリカ
6	10	三島地区BBS会	20	静岡
6	23	飯田市瀧江地域づくり委員会	20	長野
6	27	浜松市天竜区自治会連合会	15	静岡
6	28	日本大学国際関係学部2年生	23	静岡
7	1	藤枝市立稲葉公民館	13	静岡

ようこそ
アメリカ
から！



アメリカのオレゴン州の大学准教授2人が来訪。アンドリュー・バーンスタイン氏は数年前に三島を訪れており、その後の活動に関心をもって視察。

来日が初めてのエリザベス・サフラン女史は、三島の水辺にことのほか感激し、源兵衛川やミシマバイカモ等のGW三島の活動に興味津々。また、地質学が専門とのことで、富士山からの溶岩にも興味を示した。



ようこそ
日本大学
から！

三島の日本大学国際関係学部の2年生22人(出身は全国から)が、GW三島の視察と、ちゃんかけ拾いの体験をした。それまでに源兵衛川に来たことがある学生はほとんどおらず、自然観察会の小学生とも交流でき、得るものが多かったようだった。事後の質疑の成果もあって活発なプレゼンテーションだったと、担当の青木千賀子教授から報告と感謝の言葉が寄せられた。